

視察報告

# 先進の取り組みを学ぶ

総務常任委員会は10月1・2・3日の日程で、まちづくりのヒントを得るため行政視察に行ってきました。

## ナギカラ

### 岡山県奈義町

「合併しない」を選択し、6000人の人口を維持することを決めた。

総合戦略策定にあたって、町内の住民1000人と中高生全員にアンケートや町内の団体などに意見を聞き素案を作った。その中で地域再生法人「ナギカラ」が生まれ、自主財源を確保する事業にも取り組んでいる。しごとコンビニでは短時間でも自分に合った働き方ができ、子育て中の人は子どもを預かってもらえる仕組みまで作っている。



子育てママを助ける仕事コンビニ

「生きるを楽しむ」を村づくりの柱に、不在地主の土地を役場が積極的に集約し整備しやすくすると共に、行政と民間が共同で「森の学校」を設立した。合併しない小さな自治体として、地域をどう守っていくか、町の戦略的ビジョンとしてしっかり生かされている。

## 百年の森

### 岡山県西栗倉村

村面積の95%が山林で林業が衰退している時代に、豊かな森林とともに生きることを決断した。



廃校を生かした「森の学校」



空き家を活用したサテライトオフィス

徳島県は地デジ移行に対応するため全県下にCATV網を整備した。これにより情報格差が解消され、過疎化の進む中でサテライトオフィスの誘致をきっかけに賑わいを取り戻した。NPO法人グリーンバレーの活動で興味をひいた神山塾は、職業訓練を行うところ。2010年にスタートして、8期140名が巣立ち、半数が町に残った。現在、その若者が中心となり町内で起業、空き家対策で移住促進や農林業振興、

## NPOグリーンバレー

### 徳島県神山町

## ゼロウェイスト

### 徳島県上勝町

商店街活性化などに取り組んでいる。

ごみの焼却は、大気汚染や地球温暖化など、自然環境に対して大きな問題となっている。そのため「埋立」と焼却をなくす運動を展開する」というのが、日本で初めての「ゼロ・ウェイスト宣言」の目指す姿である。ごみを13品目45分別して、2016年度にはリサイクル率81%を達成した。

## まとめ

視察先はテーマを掲げ、新たに観光名所をつくるのか、地域の特色を打ち消すことなく、そこにあるものを巧みに生かしていた。どこも身の丈にあった事業規模で無理をしないで続けられていること。役目や義務ではなく取り組みで義務ではなく取り組まれている姿が印象的であった。